

風連中学校

移転し新たにスタート

名寄市立風連中学校は、平成22年3月に閉校となった旧風連高等学校の学校施設の譲渡を受けることとなり、改修をすすめてきました。

転用について、北海道教育委員会との協議が平成20年から始まり、関係機関により改修プラン原案を作成し、これをたたき台とし平成21年4月に設置した名寄市立風連中学校校舎等移転準備協議会において「改修等基本プラン」を策定し、改修計画に盛り込み改修実施設計が整いました。本年4月から名寄市が既存施設の内部改修、屋外施設改修、外構工事を行い、併せて北海道教育委員会において校舎外壁塗装工事等を実施しており、整備終了後の12月16日に校舎移転開校式が行われます。

風連中学校の歴史（概要）

風連中学校は、昭和22年（1947）旧風連小学校に併設して開校し、同年12月には独立した校舎を建築しました。

一時、各小学校に分校を併置しましたが昭和25年に日進中学校が、昭和27年には西多寄と忠烈布中学校がそれぞれ独立。その後、日進中学校を残し、他の中学校は風連中学校に統合となりました。

63年間の歴史の中には、開校して17年が経過した昭和39年4月11日の火災による校舎全焼という試練がありました。当時の在校生は、校舎が出来上がるまで小学校の体育館を間借りしての授業。時折、侵入するスズメや空中からの鳩のフンを避けるためにビニールを張り、隣のクラスの間仕切りには、ベニヤ板を張って春から秋まで過ごし、新校舎へはそれぞれで机と椅子をかついで運んだことが印象深く、近代的な校舎に驚きを覚えたといえます。

そして、同年10月には学校関係者、町民

の熱意により完成にこぎつけることができました。

この校舎から、46年の間多くの生徒を育み、卒業生を世に送り出してきました。12月16日に校舎移転開校式を迎える校舎は、今年3月まで風連高等学校として、地域の先輩が過ごした学び舎。新たに風連中学校として生まれ変わります。

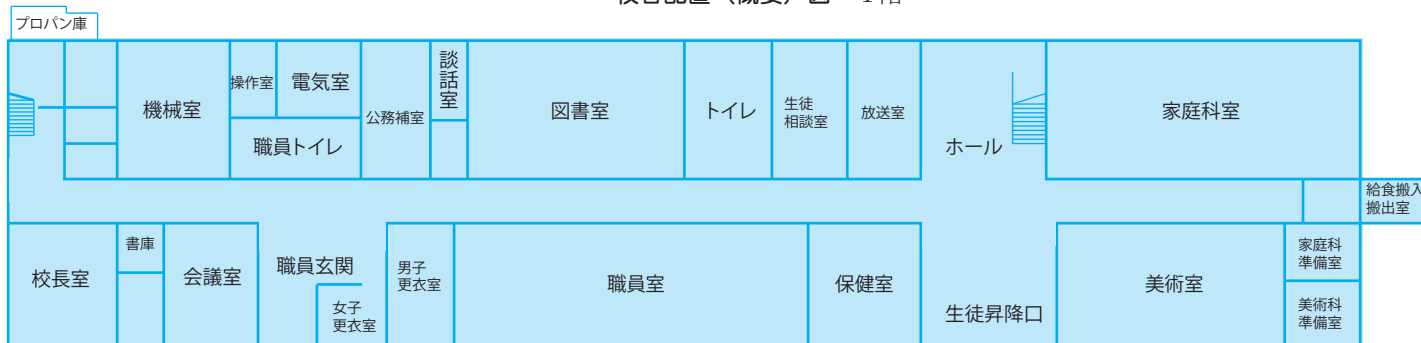
改修の基本方針

- 1 風連高等学校の学校施設を利活用し、中学校としての施設機能確保するための改修
- 2 生徒数の推計による将来の学級数を普通学級3〜4学級、特別支援学級を1〜3学級と想定
- 3 中学校施設整備指針（H21年3月・文部省）が基本

改修・移転に伴う事業費など

平成22年度の風連中学校施設整備事業費は、旧風連高等学校の校舎や屋内運動場を中学校としての施設機能確保のための改修と、グラウンドや駐車場整備等の外溝整備に関する工事を合わせて1億6百万円、また、備品整備や光ケーブルの敷設、教育用パソコンの移設、デジタルテレビ取付け、旧校舎開口部閉鎖工事、移転費用等として4,049万円を予算措置するとともに、通学環境と安全対策に7百万円を投じて街灯の設置、（せせんきょう）跨線橋改修工事、歩道整備を行いました。

校舎配置（概要）図-1階



2階には、普通教室のほかコンピュータ教室、技術室、理科室、多目的室、音楽教室、特別支援教室があります。